従来の紙すきとは異なる

新しいKAMISUKIワークショップ

現代の生活スタイルにあった「新しいKAMISUKI」の講座案内

日本和紙造形研究所

新しいKAMISUKIワークショップ～筆を使わず絵を描く、新しいART

「紙すきで絵を描こう!」

作品、
後日送付

従来の紙すきとは異なる新しいKAMISUKIは、筆を使わず絵を描くことができる。
だれでもカンタンにできます!

大型商業施設小田原ダイナシティの7周年記念祭

子どもが想像力を発揮する新しいART

筆を使わず、紙すきで絵を描く「新しいKAMISUKI」は色鉛筆や筆で描くのとは違い、植物の繊維を絵の具とし、水で漉き込む新しいアートです。これまでにない新しい感性を刺激することで、子どもの持つ柔軟な創造力がより自由に発達する。先入観のない子どもにとっては、新しいアート「和紙造形」に思いっきり創造性をぶつけて、大人が思いつかないような新しいビジュアルを創造する機会となる。

紙は木からできている～資源を大切にする気持ちを育む

「紙は何からできてる?」という質問に対して、「石油!」と答える子がいます。このワークショップでは「紙は木からできている」ことを知ってもらい、体験することで「紙を大事にする」ひいては資源を大切にするといった気持ちが、アートを楽しむことで自然に育まれます。

○制作した作品は、一旦こちらでお預かりし、乾燥後、参加者へ送付します(別途送料)。

○送付用封筒に、直接住所を記入していただきます。

○必要な道具はすべてこちらで用意できます。
○水はタンクを用意し、プールで水作業をしますので床にはしずくがたれる程度です。

折りたたみ式の長机1台で2名が作業

日本和紙造形研究所　代表　國高ひでき　080-4452-0092
〒190-0181　東京都西多摩郡日の出町大久野6436
info@washizokei.jp　ホームページ http://washizokei.jp

新しいKAMISUKIワークショップ

タオルでKAMISUKI「和紙あかり作り」

紙すきの原理は、コウゾの繊維を平らに並べて水を切るというもの。乾くと紙になる。これを応用したものが「タオルでKAMISUKI」です。パイル地を写し取って独特の風合いを醸し出します。

WSの流れ

1　素材（コウゾ・水・ねりの入ったもの）を各自作る
2　タオルに素材を流し込む（写真1参照）
3　タオルを絞って水を切る（このタオルを持ち帰り、自宅で乾燥させる）（写真3参照）
4　事前に用意したタオル和紙（1枚）をあかりの台に巻き付けて、和紙キャンドルを仕上げます。

当日、持ち帰るもの

○WSで作成した絞ったタオル（湿った状態）
○完成した和紙キャンドル

※材料費とは別に、あかりの台が必要です。

和紙キャンドル

○LED和紙キャンドルは、光がゆらめく。
○ボタン電池式なのでコードレス。どこにでも気軽に置ける。
○フッと息をふきかけてもON/OFFできる。

○必要な道具はすべてこちらで用意できます。
○水はタンクを用意し、プールで水作業をしますので床にはしずくがたれる程度です。

折りたたみ式の長机1台で2名が作業

日本和紙造形研究所　代表　國高ひでき　080-4452-0092
〒190-0181　東京都西多摩郡日の出町大久野6436
info@washizokei.jp　ホームページ http://washizokei.jp

新しいKAMISUKIワークショップ

スマホケースを一閑張りで作ろう!

一閑張り(いっかんばり)は、和紙を張って柿渋を塗ることで、丈夫になり、防水・防腐・防虫効果が高まる。リペアしながらモノを大事に使い込む、昔ながらのリユース技法。先人の知恵を現代に生かす。

和紙をのりで貼った状態。
この後、柿渋を塗る

スマホだけでなく、お茶缶や
紙箱など、小さなものであれば
時間内に一閑張りにできる

WSの流れ

1　のりを作る
2　和紙をこまかくちぎる
3　のりでスマホケースに貼る
4　ドライヤーで乾燥させる。完全に乾かなくても大丈夫
5　柿渋を塗る
6　ドライヤーで乾燥させる。完全に乾かなくても大丈夫
7　再度、柿渋を塗る
8　同様にして、合計3回柿渋を塗る
9　生乾きの状態で持ち帰る(時間があれば完全に乾燥させる)

当日、持ち帰るもの

○WSで作成したスマホケース(生乾きの状態ですので、参加者に持ち帰り用のレジ袋を用意していただきます)。

※オプションで一閑張り制作キットを購入いただけます。

○必要な道具はすべてこちらで用意できます。
○紙すきは行いません。

折りたたみ式の長机1台で2名が作業

日本和紙造形研究所　代表　國高ひでき　080-4452-0092
〒190-0181　東京都西多摩郡日の出町大久野 6436
info@washizokei.jp　ホームページ http://washizokei.jp

新しいKAMISUKIワークショップ

手漉きMyブックカバーを作ろう!

作品、後日送付

文庫サイズのブックカバーを手漉きで作ります。ヒモを好きな形において、残りの部分を紙の外に飛び出せば、それがしおりになる。手触りが最高に心地よい。

ひもの上に素材をかけて、ひもが取れないようにする。
ひもの飛び出した部分がしおりになる。

WSの流れ

1　素材(コウゾ・水・ねりの入ったもの)を各自作る
2　紙漉きで文庫サイズの紙にする
3　ひもを好きな形におく
4　ひもの上に素材をかけて、ひもをおさえる
5　板干しする
6　同様にもう1枚作る(所要時間2時間の場合)

○制作した作品は、一旦こちらでお預かりし、乾燥後、参加者へ送付します(別途送料)。

○送付用封筒に、直接住所を記入していただきます。

○必要な道具はすべてこちらで用意できます。
○水はタンクを用意し、プールで水作業をしますので床にはしずくがたれる程度です。

折りたたみ式の長机1台で2名が作業

日本和紙造形研究所　代表　國高ひでき　080-4452-0092
〒190-0181　東京都西多摩郡日の出町大久野6436
info@washizokei.jp　ホームページ http://washizokei.jp